

名古屋大学 大学院工学研究科
マイクロ・ナノ機械理工学専攻
マイクロ・ナノシステム講座
マイクロ・ナノプロセス工学研究グループ

秦 誠一 教授



7号館地区再開発の進捗状況報告

名古屋大学では、老朽化著しい7号館を中心とした地区の再開発を進めています。2016年に名古屋大学地域連携グローバル人材育成拠点施設として概算要求を行い、2017年の予算内定を受けて、東山キャンパス7号館地区再開発整備事業計画を2017年11月に策定しました。2018年には全学および工学部にて7号館地区再開発ワーキンググループ（WG）を結成し、小職は工学部施設・図書委員会委員長として、工学部WGの主査を拝命し、現7号館居住者の移転交渉、新7号館入居者の決定とその配置計画、さらには外部資金による研究スペース拡充のために、近隣企業への説明とお願いに奔走する日々です。新7号館は、PFI（Private Finance Initiative）事業として進められ、一定の外部資金と収益施設（コンビニエンスストアなど）により、民間資金とノウハウを導入しての整備となります。現行の7号館は2020年8月に取り壊しを開始し、新7号館は2023年3月に竣工予定です。

具体的な新7号館の姿は、まだ計画途中ですが、新7号館は地下1階地上3階の低層棟の上に4階から10階程度までの高層棟を有し、向かいのIB電子情報館と同規模の建物となる予定です。さらにその北側、四谷山手グリーンロードに面した場所に新北部生協が建設予定です。新7号館の東側、地下鉄3番入口側には、オークマ株式会社様のご寄附により、2019年度竣工予定のオークマ工作機械工学館が建設されます。周辺の再開発としては、新7号館完成後に、現7号館同様、老朽化の著しい機械学科実験棟や、実験実習工場棟を取り壊し、将来のさらなる再開発のためのスペース確保を行います。

新7号館には、実験実習工場の機能に加え、創造工学センターとその工作室の機能を集約化し、オークマ工作機械工学会館の最新の工作機械とも連携し、ものづくりの見せる実験実習工場を目指します。ここでは、高度創造工学実験やフォーミュラ、鳥人間コンテストなど、大学の授業のみならず、学生のものづくりを支援します。同じく低層棟には機械航空系の酒井研究室、成瀬研究室およびマイ

クロ・ナノ機械理工学専攻の各研究室と、その実験室が入居し、同じく入居する物質科学専攻と共に、学科、専攻の壁を超えて共創し、地域とも連携した新しい人材育成を目指します。講義室も、将来の改組や学生減少などを見据えて、なるべく大型の講義室となるスペースを確保し、可働壁により中小の講義スペースに柔軟に分割、変更できる計画です。その他、寄附施設としてホールなど福利厚生施設、産学連携のレンタル研究スペースも設けられます。

新7号館をすばらしい建物とするべく、今後も様々な交渉や計画を進めて参ります。一方で、大学への運営交付金が毎年削減され、建物が建設されても引越しを初め、その後の運用の資金も心もとない状況です。持続可能で後世に禍根を残さぬ再開発とするために、会員の皆様におかれては、大学への国策に対する世論喚起や、名古屋大学工学部・工学研究科支援基金 (NUDF-e) へのご協力など、様々なレベルでの一層のご支援を心からお願い申し上げます。



現在の7号館



7号館地区再開発計画